

No10 行事への参加が難しい子への配慮点

発達障害の特性をもつ児童生徒の中に、特別な行事への参加が難しい子どもたちが多くいます。また、参加をしたとしても、途中で混乱を起こしたりして、うまく活動できないことがあります。これらの行動の背景として、下記のようなことが考えられます。

- (1) いつもと違うことをするので、先の見通しがもちにくい。
- (2) 未経験の行事のため、内容や様子をイメージ化することが出来にくく、とても不安を感じる。
- (3) 校庭や体育館等いつもと違う場所や広い場所で行われ、落ち着かない、不安である。
- (4) いつものクラスの担任や仲間だけでなく、多くの人がいるため、不安を感じる。
- (5) マイクの反響音や多勢の話し声等、雑音がとても大きく（敏感に）感じ、不快に思う。
- (6) 同じ姿勢を維持し続けることが困難。暑さや寒さへの耐性が弱いいため長続きできない。等

これらの原因のため、行事の際に奇声を発したり、自傷・他傷行為、その場から逃避しようとする行動等がみられることがあります。「本当はここにいたくない」ことを表すメッセージとして受け止めてあげることが必要です。

支援のヒント

- (1) 行事の進行や、席（立つ場所）の移動に不安があると考えられる場合は、並ぶ位置は、「床の黄色いラインの上」とか「 ちゃんの後ろ」など、具体的な目印を教えておきます。
- (2) 集会の内容などは、前もって、やる事を順番どおりにイラストや箇条書きなどで示しておき（カード等を利用）、当日は、時々そばについて、「次はこれだよ」と説明を加えてあげるようにします。
- (3) 当日行う場所での事前練習を、出来るだけ行うように試みておくとよいでしょう。
- (4) 周りの子どもや大人の動きが気になったり、人と接近しすぎると情緒が不安定になりやすい場合には、近くの子どもの席から少し離れて座るようにしたり、可能なら教師と一緒に座るようにします。
- (5) 周囲の音声などの刺激がストレスとなる場合には、静かになってから会場に入るなどの対応も考えられます。
- (6) 長い時間同じ姿勢でいることがたいへんな場合は、式のプログラムを考えながら、姿勢を変えられるポイントを設定しておき、(2)の本人に持たせる進行図表に姿勢の絵等も明示しておくようにします。

その子の困り感を 周りが理解することから始めましょう

自閉症のお子さんは特に、初めての行事や苦手な活動が含まれた行事を行う際、強い不安を感じて、落ち着かなくなったり、常同行動（同じ行動を繰り返す）や自己刺激行動（自分で頭をたたく、眉毛を抜くなど）が強くなったりすることが多くあります。

このような行動は、不快感の原因が自分でも分からなかったり、自分の困り感を誰かに適切に伝えることが苦手だったりして、本人が一番苦しい思いをしているのです。

また、このことは、知的発達の遅れのない自閉症児でも同様に現れます。

周りからは、集団と同じ行動をしないわがままな児童生徒であるとみられがちですが、どう援助をしたら、本人が少しでも楽に参加できるようになるのか、あるいは、どこまでなら参加できるのか、参加することが本人にとってはいいことなのか等を、保護者や支援チームで考えていくことが必要です。

